



スキー再開

山本 眞儀 一般社団法人
日本エレクトロヒートセンター 理事

夏に向かうこの時期に季節はずれの話で恐縮であるが、昨シーズンに夫婦そろってスキーを再開した。小生は10年ぶり、家内にいたっては15年ぶりになる。

きっかけは、「今年の冬は、久しぶりにスキーに行こう」のキャッチコピーからなる日本スキー産業振興協会の新聞広告。いわく、「自然の中で思いきり“あのところ”に帰る 増える中高年スキーヤー」「スキーは安全で快適な生涯スポーツです」とあった。

何せ10年ぶり、スポーツショップに行き、流行のカービングスキーとウェア購入に大枚を払った。と言っても往時と比較すると、道具は7掛け、ウェアは半値。ちなみに、ウェア代は上下あわせて29800円、ところがこれが保温性、耐水性とも抜群。技術の進歩はすごいと感激。一方で、スキー人口が激減している上に単価も下がり、スキー用品業界も楽ではないと思わず苦勞しているであろう業界人が気になった。

スキー場に行くと、リフト代はシルバー割引設定があり、50歳以上は1000円引き。業界上げて中高年をゲレンデに呼び戻そうとの思いが感じられ、すっかり得した気分であれしくなる。

メインのリフトは4人乗り。スキー人口減少の影響か昔のような長蛇の列ではないが、それでも多少は並んでいる。それなのにリフトの定員乗車はほぼ皆無、一人、二人が乗ったリフトがさびしげに動いていく。いよいよ我々夫婦の番、前にいるのは一人。当然のことと「一緒に乗ります。よろしく」と言ってリフトに乗り込んだとたんの相手の顔はまるで「何だ、このおっさん？」その後、何度乗っても同じ状態。同乗者がカップルであろうものなら完全に迷惑者扱い。昔のように、少しでも数多くすべるためにリフトは定員乗車が当たり前の時代とは様変わり。こちらから挨拶しても会話も進まない。若い世代は、一本でも多く滑ろうとのハングリー性も社会性も無くなったのかと心配になった。

そんな時に、むこうから乗り込んできたのがIさん。63歳のスノーボーダー。Iさんとは会話も進む。そのIさん「58歳でスキーの一級を取りました。そこで、ボードを始めてみたら、山本さん、スキーも良いけどボードはもっと自由で楽しいですよ。ボードでも一級を目指します。」いやはや、元気の良い中高年はいらんだ。恐れ入りました。

スキー場があまりに空いているので、スキー人口（含むスノーボーダー）の推移を調べてみた。'92年の1890万人をピークに減少し、'05年は1270万人。ただ、それ以上に来場者数が減っており、全国どこのスキー場も最盛期の半分以下の状況で、来場者をいかに増やすかで四苦八苦とあった。来場者数減少にはスキーシーズンの短期化も影響しているとのこと。そういえば昨シーズンも、スキー場オープンが正月直前だったし、積雪も少ないシーズンでした。

ひるがえって、我が「エレクトロ」の世界。電力需要はわずかながらも右肩上がり、日本エレクトロヒートセンターも電化によるエネルギーの効率的利用にリーダーシップを発揮している。当センターの活動を通じて、低炭素化社会実現に寄与することができ、更に、少し長くスキーシーズンが楽しめたら万々歳である。

(やまもと まさよし) 三菱電機(株) 執行役員 電力事業部長